

TOEICの全学的導入により 英語コミュニケーション能力が向上

英語コミュニケーション能力の育成を全学の英語教育の共通目標としている愛知淑徳大学では、今年から新入生全員にTOEICを実施。そのデータをもとに英語教育のクラス編成を行っています。学生は年2回、無料でTOEICを受験することができ、自分の英語運用能力を客観的に把握することができます。全国でも先進的な取り組みをスタートさせた。本学の「英語教育検討委員会」の先生3人に語ってもらいました。

TOEIC(トイック)英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界基準のテスト。10点から990点までの5点刻みのスコアで評価する。

左より
文化創造学部助教授
中郷 慶
現代社会学部教授
石橋千鶴子
文学部助教授
おひで
榎木勇作



レベルに応じた授業

石橋 以前から学内では英語のスタンダードテストを導入しようという意見がありました。2000年、新設された文化創造学部でのTOEIC導入をきっかけに、2001年度より全学的に導入することになりました。中郷 学生の英語のレベルは様でないので、以前は教える側にも戸惑いがありました。しかしTOEICスコアによる到達度別クラス編成を導入してからは、レベルに応じた授業ができるので、教員にも学生にも好評です。

石橋 入学時の英語能力は問わず、「意欲を引き出し、意欲に応える英語教育」を目指しています。高校の英語教育で文法、訳読に苦しんだという学生でも、たとえばネイティブの先生の「コミュニケーション」で英語の面白さを実感でき、自発的に英語学習に取り組む動機付けが生まれる。そういったことで考えたカリキュラムを用意しています。

榎木 今年からは全学部、入学時に新入生全員が受験しています。また、全学部生・大学院生は年に2回まで、大学が費用を負担し、無料で受けます。

中郷 TOEICは大学1年生には難しいという話もありますが、どうせ受けなければならないのなら早い方がいい。受けることで、勉強しなければという意識も高まってきます。

中郷 TOEICは大学1年生には難しいという話もありますが、どうせ受けなければならないのなら早い方がいい。受けることで、勉強しなければという意識も高まってきます。

石橋 学内のコンピュータ施設で、TOEICの自主学習用ソフトを利用できるようにしたり、個別相談コーナーを設けるなど、学生へのサポート体制を整えています。

中郷 TOEICは大学1年生には難しいという話もありますが、どうせ受けなければならないのなら早い方がいい。受けることで、勉強しなければという意識も高まってきます。

多様なプログラムでバックアップ
中郷 他学部でも受講できる科目を設けるなど、意欲次第で多くの授業を選べます。また、最上位レベルの学生向けの「上級英語セミナー」を昨年4月から、TOEICの対策講座「ASU TOEIC」を今年4月から全学向けに開講しています。

中郷 TOEICは大学1年生には難しいという話もありますが、どうせ受けなければならないのなら早い方がいい。受けることで、勉強しなければという意識も高まってきます。

榎木 長期の留学経験がなくても、毎日の予習復習をしっかりと、ネイティブの先生の授業を履修したり、も整いつつあります。

高の英語教員の実力アップのため、TOEIC730点以上等を目指とする構想を発表しました。本学が中京地区の中でもいち早く全学的にTOEICを取り入れたことは、教員志望の学生にも励みになっていいると思えます。

中郷 就職難の現在、企業は即戦力を求めています。そのため学生が就職活動に入る3年終了時、TOEICのスコアが就職に有利だとされる600点になっているのが理想です。3年になって準備を始めても遅いんです。

榎木 商社やホテルなど英語を使う部署では730点以上が望まれます。

石橋 英語能力を身につけてあげば、将来何をすることも活動の幅が広がります。道具として使えるだけの十分な英語運用能力をつけてほしいと思います。

学生の学科・専攻名	入学時のスコア (2001年4月)	2002年2月のスコア	入学後10か月の伸び
多元文化専攻	295	610	315
現代社会学科	320	595	275
多元文化専攻	265	530	265
英文学科	220	475	255
言語コミュニケーション学科	270	525	255
コミュニケーション心理学科	425	670	245
現代社会学科	210	440	230
コミュニケーション心理学科	355	585	230
多元文化専攻	315	540	225
英文学科	440	660	220

	受験者数	最高点	平均点
国文学科	147	420	284.1
英文学科	151	600	363.8
図書館情報学科	138	490	308.7
現代社会学科	393	535	296.7
コミュニケーション心理学科	182	560	309.8
ビジネスコミュニケーション学科	189	570	303.5
言語コミュニケーション学科	131	670	403.5
表現文化専攻	102	595	310.0
多元文化専攻	93	610	353.7
環境文化専攻	92	470	291.0

TOEICスコアが飛躍的に伸びた学生

TOEICスコア 入学時	2002年現在(伸び)	履修している英語クラス
現代社会学科2年 坂 祐里さん 320 615(295) ASU TOEIC	620 785(165) 上級英語セミナー	英語は以前から好きで、今も録音したラジオ講座を毎日聞いています。でも初めて受けたTOEICはリスニングが早く、結果もショックだったので、レベルアップしたいと思いました。ASU TOEICは宿題が多くて大変ですが、自分で勉強しようというきっかけになる授業だと思います。
英文学科3年 中川 雅子さん	680 800(120) 上級英語セミナー	高3の1年間、オーストラリアに留学して以来、英語で日記をつけています。無料でTOEICで受けられるのは自分の英語のレベルを知るいい機会ですね。上級英語セミナーはレベルに合った勉強ができるのはいいのですが、初めは辛くて、でもスコアが伸び、勉強したがいがありました。
言語コミュニケーション学科2年 飯島 直子さん	300 645(345) 上級英語セミナー	中学生のときからアメリカの文化に興味があり、高2の1年間、交換留学生でアメリカに行きました。普段、特に英語の勉強はしていませんが、日課でCNNやBBCのニュースを聞いています。英語を話すのが好きなので、外国人の友だちを作ったり、海外の友人とEメールを交換しています。
多元文化専攻3年 岩田 洋子さん		初めて受けたTOEICは要領が分からず散々でした。スコアを上げるために英語の授業をたくさん取って、前期にはASU TOEICも受けていました。今も予習と宿題で1日2時間くらい勉強しています。少人数のクラスなので、先生に質問すると親身になって答えてもらえるのがいいですね。

早期進路教育プログラム

長引く不況の影響で超氷河期といわれる就職戦線が続いていますが、本学の平成13年度就職内定率は95.8%と高く、4年制大学、特に文科系大学卒業者の就職率の低下が指摘されるなかで、着実に実績を上げています。その背景には、4、5年前から開講している各種資格取得対策講座や、夏期及び春期休暇を利用したインターンシップ、就職活動に必要なノウハウが詰まった進路支援ガイダンス、学内企業説明会の実施などがあります。また、学生一人ひとりに対する進路相談にも常時対応しており、昨年度に進路支援センターを訪問した学生は4年生だけで延べ2300人、平均で一人あたり2、3回相談に足を運んだことになりました。

一方、職業観の多様化など学生側の意識も変化しつつあり、学生一人ひとりの潜在能力、可能性を最大限に引き出すとともに、現代社会への適応能力を高め、社会的な自覚を促す必要があります。

昨今、大学を卒業しても就職しない学生が増加していますが、低年次における進路問題への関心の希薄さ

が就職対策の遅れにつながっている部分があります。そこで、早くから進路に対する学生の意識を高めようと、昨年10月から「キャリアガイダンス」という早期進路教育プログラムを導入しました。学生自身が自分の進路適性を見極めるための自己理解の体験学習や、政治・経済の動向、給与・税金といった社会システムの知識対人関係や自己表現法、組織のなかでの対人ノウハウを学ぶグループワークなど、1年生の春から3年生の夏にかけて12回にわたり実施するものです(右図参照)。

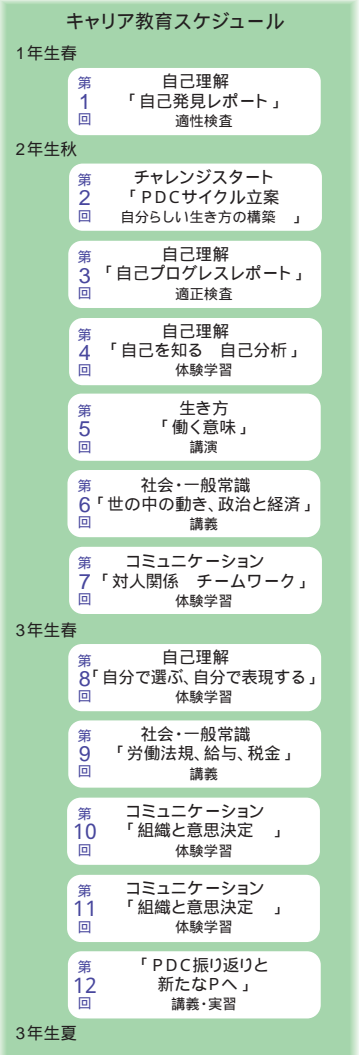
進路支援レポート

2年目に入り、 成果が上がる 「キャリアガイダンス」

進路支援センター所長 犬飼昭式

により外向的、内向的といった自分の性格や、社会に出たときに求められる適応力、ストレス耐性、自己統制力など社会的能力の傾向、学習スタイル、基礎学力、職種に対する興味などを分析し、社会や他の学生のなかでの自分のポジションを認識させます。続いて2年生では第2回目の適性検査「自己プログレスレポート」を実施し、進路選択に関わってくる自分の価値観や職業観、キャリア観などを探ります。「自己発見レポート」が自分自身の弱み・強みを早期に理解し、自ら4年間の目標を設定させる支援ツールとすれば、「自己プログレスレポート」は自分自身をさらに探求し、まもなく迎える具体的な進路選択の土台を築くための支援ツールと言えます。

進路支援センターでは、キャリア教育をより多くの学生に広げていきたい、そのためには正課に組み入れることも検討しています。また、一部の学科では一般社会常識やマナーなどキャリア教育と重なる授業を設けているので、今後はそれらを整理し、さらに充実させるよう検討していく必要があると考えています。



就職活動へスムーズに移行

「キャリアガイダンス」及びこの手の適性検査のプロセスを経ることで3年生の夏以降に実施される「業界研究」「自己PR作成」「エントリーシート」の作成など実際の就職活動に向けた、進路支援ガイダンスへスムーズに入っていくと思われる。